

# 令和4年度 自己評価報告書（日高さくらの木）

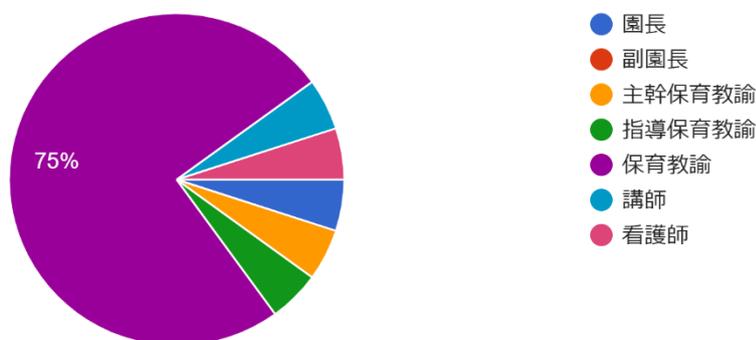
標記について、次のとおり取りまとめましたので報告いたします。

なお、自己評価の結果をもとにして園の強み弱みを分析しながら改善を行い、保育の質の向上に努めて参ります。

## 【20件の回答】

### 回答者の職名

20件の回答

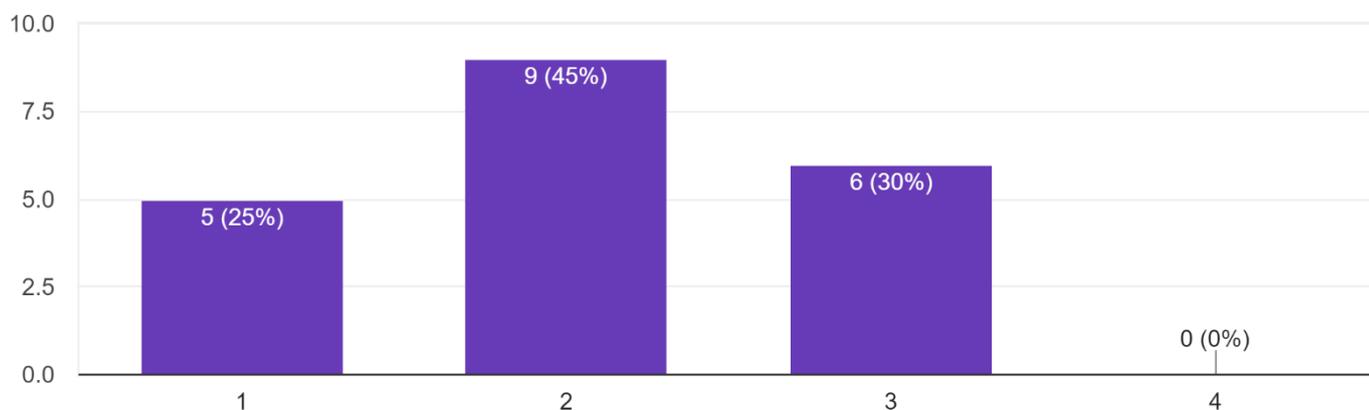


## 1 【教育内容】SDGsへの取り組み

- ・自然の大切さに触れる。
- ・野菜を育てたり、自然あそびの中で自然を五感で感じる。

【I. 教育内容】1 SDGsへの取り組み ・自...育てたり、自然あそびの中で自然を五感で感じる。

20件の回答



### 【上記取組の成果】

- ・話し合いのところでまではいくもののその後が中々進まず日だけが過ぎてしまった。
- ・子どもと一緒に野菜を育てる楽しさを実感することができた。
- ・散歩へ出かけたり戸外遊びを楽しむ中で自然を遊びに取り入れることができた。
- ・冬前まで色々な作物を育てられた
- ・野菜を育てるなど、自然を五感で感じた。
- ・天気などからあまり外に出られず、自然に触れる事ができなかった。
- ・野菜を育てたり、季節を感じながら自然遊びを行うことができた。
- ・野菜のお世話を通し、野菜の生長について気づきや発見したことを言葉でやりとりする機会にも繋がった。また自分が感じた感触を自分なりに自由に言葉で表現していた。
- ・野菜作りを通して育てた野菜に興味を持ち、食べてみようとする姿が見られた。
- ・季節ならではの遊びを子どもたちが自ら進んで行う姿が見られた。
- ・子どもたちと育てたい野菜について話し合い、意欲的に野菜作りに取り組めた。SDGs の取り組みとして、野菜の皮を乾燥させ土に還して肥料にするところを子どもたちと一緒にやったことで、SDGs について考える良い機会となった。
- ・散歩などで自然と触れ合うことは出来たが、あまり触れ合えるような活動を行えなかった。散歩や戸外遊びを通して季節の草花に触れることが出来た。
- ・動植物に興味を持って触れたり、飼育を積極的にする姿が見られた。
- ・天候や状況を見て冬の散歩に出かけ、子どもたちは冬の自然に触れる機会を設けられたり、自分自身も冬ならではの自然に触れることができた。
- ・散歩など戸外での活動時に草花に触れて、植物など自然を認識できた。
- ・野菜を育てクッキング等で、自然に触れ、感じる事ができたと感じる

### 【上記取組の今後の課題】

- ・担当を決めるなどしてみんなで取り組んでいけるように進めていく。
- ・子どもたちにもっと分かりやすく流れや自然の良さを知ってもらうために、口頭だけではなく視覚的に捉えやすい絵やペープサートを使用していく。
- ・食べ残しが多い児もいるため、食べ物大切さを伝えながら少しでもロスをなくせるようにする。
- ・野菜を育てるのは夏のみになってしまった為、夏以外の季節も取り組める工夫をする。自然に触れられるような活動を行っていく。
- ・プランターでの野菜作りだった為、畑の土に触れる事は少なかった。畑を見に行くなど、経験をさせていく。
- ・来年度は自分たちで育てた野菜を調理し、食べ物の興味や普段何気なく食べている食事のありがたさ（感謝）を感じられるような活動をしていく。
- ・園庭の環境が変わったので、植えてある植物にも目を向けられるような保育をしていく。
- ・SDGs の導入、取り組みが上手くできなかったので来年度は計画的に進めていきたい。
- ・自然への興味、関心を高められるように環境を整えるなどして働きかけていく。
- ・SDGs についての理解をより深めていき、保育に取り入れられるようにしていく。
- ・日頃の生活から自然と触れ合えるような活動が出来よう工夫していく。
- ・今後は園の畑や他のクラスの育てている野菜を見に行く機会を作っていきたい。
- ・より身近で関わりたい。
- ・さまざまな植物などに対して知識が不足しているところがあるため今後の保育のためにも自分で学ぶ時間を取り入れていく。

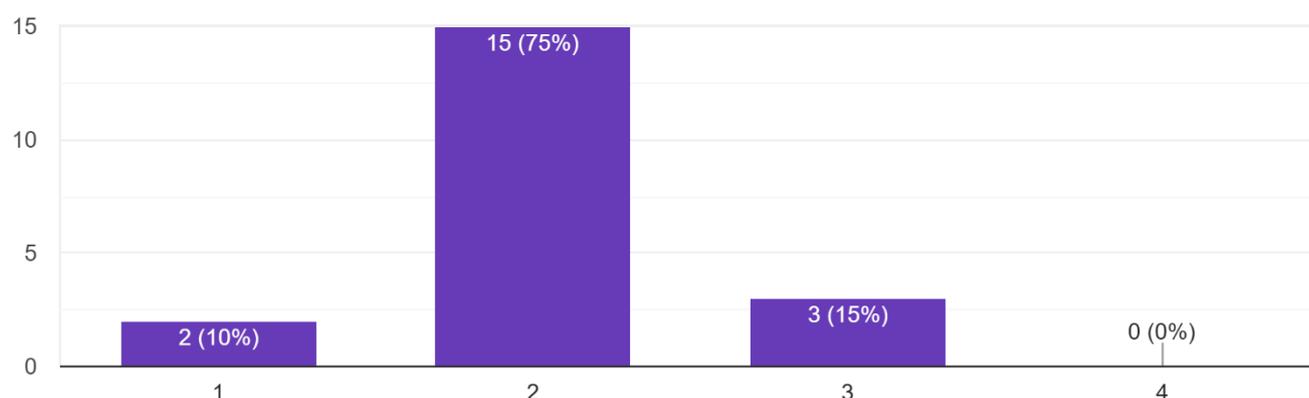
- ・今後も四季や自然に触れる機会を増やして、まずは認識をし、それを深める声かけや関わりを持つ。
- ・図鑑で学んだり、観察日記のようなものに挑戦しても楽しいと思う。

## 2【教育内容】教育環境の構成

- ・月齢に合った玩具を組み合わせながら、安全にかつ自主的に遊べるような環境作りを行う。
- ・子どもが安全で心地よく幼児期にふさわしい生活を送れるような環境を整える。

### 【I. 教育内容】2教育環境の構成・月齢...児期にふさわしい生活を送れるような環境を整える。

20件の回答



### 【上記取組の成果】

- ・玩具の環境設定はできていたが、製作等そこから考えて遊びを広げていけるような環境設定が不足していたように思う。
- ・子どもがやりたいという遊びを積極的に活動に取り入れることができた。
- ・コーナー遊びでは、様々な種類の玩具を準備することで好きな遊びを選び楽しむことが出来るようにした。
- ・子どもたちに大きなケガもなく、また自分達であそびを考えて遊ぶ姿も見られた。玩具を十分に用意できた。
- ・自分で考えて遊べるようコーナー遊びを設置したり、時間で区切って遊びを展開できるよう心がけた。
- ・児が今、好んで遊んでいるものなど、選び遊びに取り入れることが出来た。
- ・積み木を掃除などに見立てて遊ぶ姿があったので、実際に雑巾を用意すると児たちが自主的に掃除しようとする姿が見られた。
- ・季節に関連した玩具をその季節が過ぎても出したままにすることがあった。
- ・発達段階に合わせて玩具を用意したが、自主的に取り出せてるような環境作りができなかった。
- ・異年齢児との交流を通して玩具の使い方などを知り、遊びを広げていた。
- ・子どもたちが遊びこめるような環境を考え、整えるようにした。
- ・月齢や季節に合った玩具を提供し、一人遊びや他児と遊びを楽しめるような環境を作っていた。また、低月齢児、高月齢児にわかれて活動することにより快適に過ごせるよう配慮した。
- ・子どもたちが興味をもっている玩具や遊びを中心に活動することが出来た。
- ・自分達で様々な素材に触れて遊んでいた。

- ・保育中の事故や怪我也ほとんどなく、保育環境も充実していたと思う。
- ・いつも同じ遊びになってしまった。クラスによって遊びを考えて環境づくりができた。
- ・怪我なく安全に活動できる環境作りをすることができた。
- ・自主的に新聞紙、広告用紙等を活用して遊ぶ姿があり良かったところだと感じる。

### 【上記取組の今後の課題】

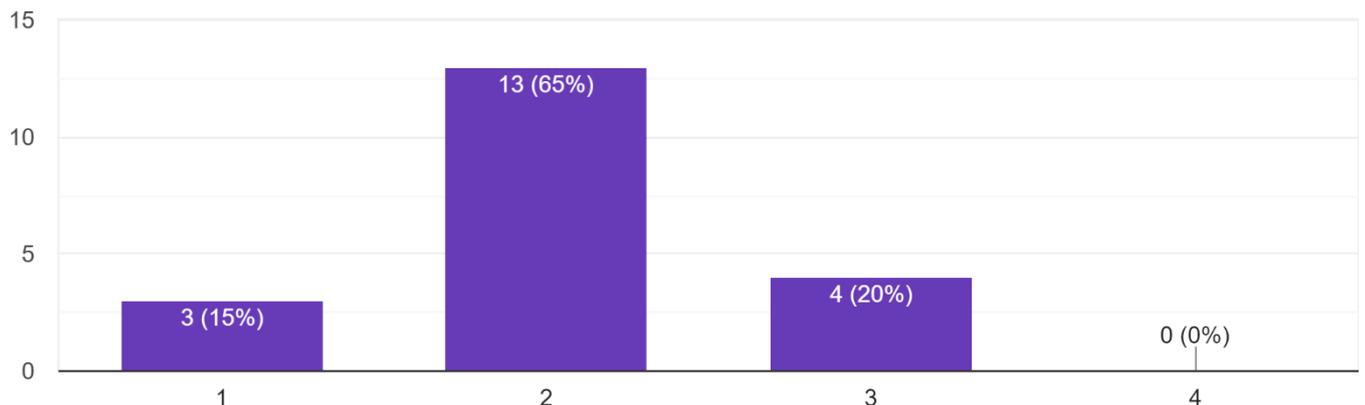
- ・子ども達の遊びの姿に目を向けてこんなものを準備したら遊びが広がるのではないかという意図的な準備など様々なイメージを持って工夫し表現できる環境を整える。
- ・高月齢児や何でも挑戦しようとする児が遊びにとことん集中できる空間や環境づくりがあまりできなかった。
- ・遊びがマンネリ化しないように季節によって玩具を変える等工夫していく。
- ・玩具の遊び方が一通りになってしまった。もっと遊び方を発展させられらように声をかけたり提供をする。
- ・更にレベルアップした遊びができるようにコーナーや活動内容を考えていく。
- ・破損や、玩具の元の個数など、使用前に確認し、安全に遊びを楽しめるようにする。
- ・季節に合った玩具を見たちが自由に取れるところに置いて遊べるようにする。玩具でも四季を感じれるようにする。
- ・部屋の環境を整えて、自主的に単語を取り出せるようにしていく。
- ・環境について話し合う場が少ないので、現場の先生からの意見を聞きながら子どもにとっての良い環境について考えて形にしていく。
- ・今後も月齢に合わせた活動や月齢ごとにわかれて活動するなど、環境を整えていく。
- ・今後は決まった遊びをローテーションして行うのではなく、遊びのネタを増やして遊びの中で様々な経験が出来るような活動を考えていく。
- ・遊びを継続していく環境設定をする。
- ・月齢に合わせた環境づくりをする。
- ・友達と共同し、話し合ったりしながら製作をし、遊びにつなげられるよう環境を整えたいと思う。

### 3 【教職員体制の充実】 教職員同士の協力・

- ・連携・個々の幼児について教職員で話し合う場を定期的かつ必要に応じて持つことができる体制が整備され機能している。

#### 【Ⅱ. 教職員体制の充実】 3 教職員同士の協力・...つことができる体制が整備され機能している。

20 件の回答



### 【上記取組の成果】

- ・職員会議の時間帯で話し合いの場を持って進めてきた。また必要な際はその都度話を持てた。
- ・時間がある時は話し合うことができた。
- ・クラス内で話す機会を多く設け、保育の反省や今後の方向性を話すことができた。
- ・日々の子どもたちの言動などで気になるところがあればその都度職員間で共有していた。
- ・気づいた時に常に話し合う雰囲気や関係づくりができています。
- ・担任間では、クラス内の子どもたちの成長過程やこれから行っていきたい事、保護者対応などを話す時間を設け共通理解を図る事ができた。園全体ではまだ理解し合う場が出来なかった。
- ・話し合いが必要な際、その都度職員と情報共有することが出来た。
- ・クラス内で日頃から共有することが出来た。またその児に応じた対応などを職員会議以外にも園長や副園長、主任と共有しながら考えることが出来た。
- ・職員会議で子供たちの様子を話す機会が設けられている。
- ・職員会議の他にもクラスの先生とも子どもの様子について話し合った。
- ・職員会議などを通して職員で話し合う時間を作ることができた。
- ・クラス内や職員会議では行ったが、未満児や細かい情報交換は出来ていなかった。
- ・クラス内では朝の時間や休憩時間にそれぞれ思ったことなどお互い情報交換をして話し合うことが出来ていた。
- ・夕方は連携して保育をすることが出来た。
- ・個々に応じた対応の仕方を職員同士で確認しながら関わることによって個別性を大切にされた保育を行うことができた。
- ・定期的にはできなかった。

### 【上記取組の今後の課題】

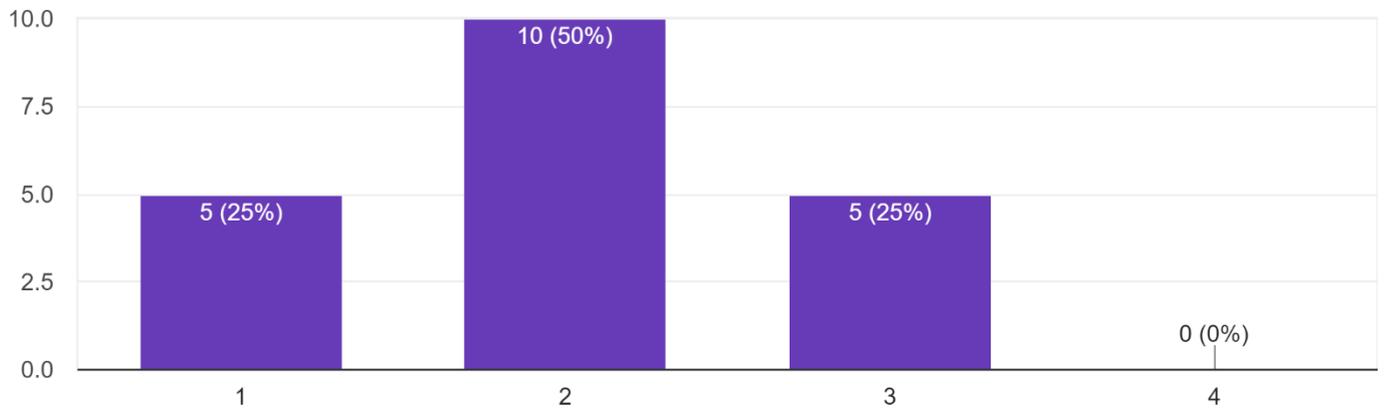
- ・これからも引き続き子供達の様子を皆で共有しより良い保育を行う。
- ・話し合ったつもりでも捉え方に語弊があったり伝達できていない部分もあった。
- ・今後も情報共有や話し合いの機会をしっかりと作っていく。
- ・もっと細かなところにも目を向けていく。
- ・クラス内だけでなく、他のクラスの職員とも連携をとっていきたい。
- ・常に連携が取れるよう、日頃のコミュニケーションを大切にしていく。
- ・引き続き、その都度クラス内、園全体で共有しながら解決が出来るようにする。
- ・日頃から報告連絡相談を密にして、すぐに対応できるようにする。
- ・定期的に話し合う場を設け、情報を共有できるようにしていく。
- ・必要に応じてクラス内だけでなく、職員会議やスラックを使って職員全体に情報共有をしていく。
- ・各クラスの担任での話し合いや連携を密にし、保育向上を目指す。
- ・定期的に行うようにしていく。

#### 4 【安全・衛生管理】安全管理体制の整備

- ・事件事故の発生を防ぐために園内外の危険箇所や危険な遊び方等について職員間で話し合っていく。

#### 【IV. 安全・衛生管理】 4 安全管理体制の整備 ...危険な遊び方等について職員間で話し合っていく。

20 件の回答



#### 【上記取組の成果】

- ・安全点検を週 1 で行い危険箇所がないかなどそれぞれ気が付いた際は報告し解決する事ができたと思う。
- ・遊びの中で気づきがあった際はクラス内で話し合うことができた。
- ・遊具点検等しっかりと行い、安全に遊べる環境作りに努めた。
- ・蜂の巣など危険箇所を排除した。
- ・危険なところや遊び方をその都度話し合い、人数確認も怠らずにすることができた。
- ・あまり話し合う事ができなかったり、自分で意識する事ができなかった。
- ・遊具点検など行い、事件、事故の発生を防ぐよう努めた。
- ・戸外などでの職員配置に留意しながら児を見守ることが出来た。
- ・危険な使い方も見られたので、安全に遊べるよう園庭の遊具の使い方や築山の約束事を職員、児たちとも改めて確認することが出来た。
- ・遊具点検やヒヤリハットを通して確認できている。
- ・危険な遊びなどがあった場合には具体的にどのような遊び方だったのかを伝え、共有した。
- ・危険箇所があった場合、その都度職員で共有することができた。
- ・定期的に安全点検は行なっているが、話し合いを設ける機会があまりなかった。
- ・散歩に行ったときに交通量が多いことや道が狭いなどそれぞれ危険なところを見つけて話をする事が出来た。
- ・怪我や危険箇所を意識して保育にのぞんだ。
- ・職員間の情報共有により、保育中の重大な事故、怪我等は起きず、安全安心な環境で子どもたち一人一人遊びを楽しむことができていた。
- ・危険な場所、箇所を事前に職員同士で確認し合うことができ、怪我がなかった。
- ・そのつどクラス担任と危険なあそびや、どう改善するべきか話をしている。

## 【上記取組の今後の課題】

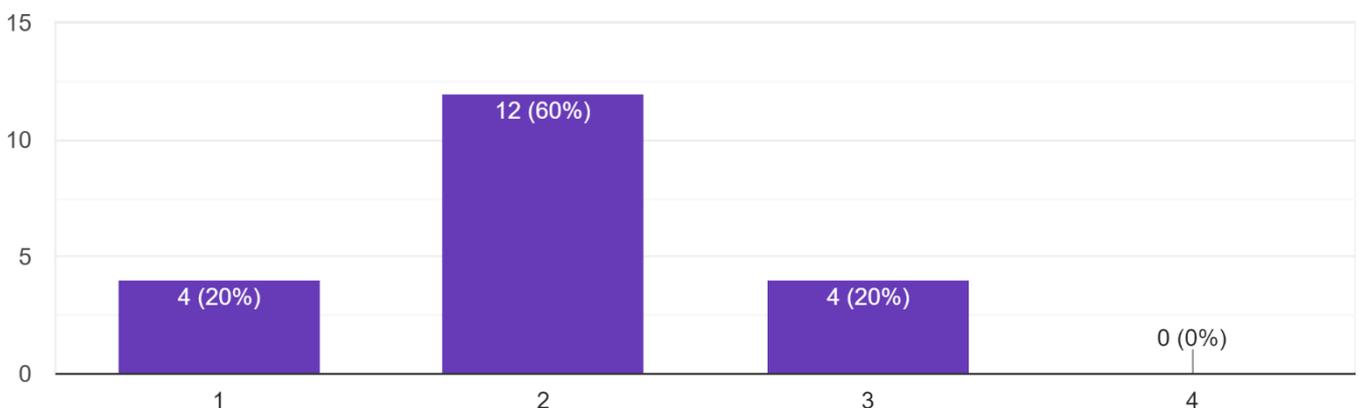
- ・これまで通り安全に過ごせるように色々な所に目を向けて過ごす。
- ・またもっとヒヤリハット事例を小さなことでも活用し、大きな事態が起きる前に防ぐ事ができるよう活用していきたい。
- ・クラス内では声をかけることができたが他の全クラスに伝わっていたか考えると自信がない。
- ・玩具の使い方や危険な遊び方について、一貫した声かけができるようにしていく。
- ・園庭の所々の凍っていたりなど箇所の遊ぶ前の事前の確認を十分に行う。
- ・普段から遊びの環境に目を向けて、自分から話し合う事ができるようにしていく。
- ・その日の振り返り等を職員間で行い、危険箇所や危険な遊びを職員全員が把握できるようにしていく。
- ・ヒヤリハットを活用し、職員全体で危険箇所を共有する。
- ・ヒヤリハットの事例が少ない。
- ・危険な遊び方が子ども同士で広まってしまうこともあるので、職員で統一した声かけを行っていく。
- ・定期的に話し合う場を設けていく。
- ・ほふく室などの玩具は毎日個数の確認と破損がないか確認しているが、部屋の玩具の点検は不定期になってしまっている為、定期的に点検していく。
- ・外部との関わり方を検討する。
- ・今後も継続していく。
- ・職員が気付いたことは共有していく。

## 5 【保護者との連携】 協力と支援

- ・子どもの食生活を充実させるために、家庭と適切に連携している。

### 【IV. 保護者との連携】 5 保護者との連携 ・子ども...充実させるために、家庭と適切に連携している。

20件の回答



### 【上記取組の成果】

- ・必要に応じて家庭の様子を聞きながら食について考えた。
- ・保護者のほうから相談があった際には家庭での子どもの様子を伺ったり、また園での様子を伝えながら情報交換ができていた。
- ・降園時や連絡ノートで、園での食事の様子や、食べられた野菜など伝えた。
- ・おたより帳を通して園での食生活を伝えた。
- ・食事の仕方で、手掴みからスプーンを使うことなど成長へと繋げられるように保護者に声をかけて、進める事ができた。また、できるようになった事を保護者と共有する事ができた。
- ・家庭での様子を聞きながら園の様子も伝えることが出来た。
- ・家での食事について、家庭と園で共有するようにした。
- ・連絡ノートや送迎時に食事の面での様子を伝えると、家庭での様子も教えて頂いている。
- ・毎日のコミュニケーションを大切にすすめることができていた。
- ・苦手なものを食べられた時には保護者の方にその旨を話し、家庭でも食への関心を高めていくことができるように働きかけた。
- ・面談などを通して、苦手な食材を保護者から聞いて対応を考えていった。
- ・給食時の様子や食材表を利用し、密に連絡を取っていった。
- ・月齢に応じて食材表を見ながら保護者の方と話を進めることが出来た。
- ・園での様子を伝えた。
- ・子どもの食生活について保護者と話しする機会を設けることができたが、保護者がそれをいかしきれたかはわからない。離乳食をすすめてもらう事で精一杯である。

### 【上記取組の今後の課題】

- ・必要に応じてではなく
- ・普段の会話でも食を楽しくできるよう工夫したり、連携できるように進めていく。
- ・家庭での食生活を詳しく知るよう保育教諭の方から尋ね、口頭で聞く機会を増やす。
- ・まだ成長過程があるから、声をかけながら保護者連携していけるようにする。
- ・家庭での食事と園での食事について保護者の方と連絡を取り合い、子どもにあった食事の援助を行っていく。
- ・保護者の思いにも寄り添いながら、丁寧に対応していく。
- ・今後も月齢に合わせて保護者の方と話をしながら食材表を進めていただくように声をかけていく。
- ・家でも協力して頂く事で、子供達の意識付けに繋がった。
- ・児や保護者の特性に合わせて根気強く話しをしていく。